

## 第15回公安委員会定例会開催状況

### 1 開催日時

令和6年6月13日（木）13時30分～17時20分

### 2 決裁事項

#### (1) 免許の取消し等

警察本部から、免許の取消し事案及び欠格期間等の処分について報告を受け、決裁した。

#### (2) 苦情の受理

警察本部から、苦情の受理について報告を受け、決裁した。

#### (3) 公文書開示請求の受理及び一部開示決定

警察本部から、公文書開示請求の受理及び一部開示決定について報告を受け、決裁した。

#### (4) 審査請求の裁決

警察本部から、審査請求の裁決について報告を受け、決裁した。

#### (5) 留置施設視察委員会の視察結果等

警察本部から、留置施設視察委員会の視察結果等について報告を受け、決裁した。

#### (6) 留置施設視察委員任命式及び第1回委員会の開催

警察本部から、留置施設視察委員任命式及び第1回委員会の開催について報告を受け、決裁した。

#### (7) 警察職員の援助要求

警察本部から、警察職員の援助要求について報告を受け、決裁した。

#### (8) 特定抗争指定暴力団等の指定に係る警戒区域の変更

警察本部から、特定抗争指定暴力団等の指定に係る警戒区域の変更について報告を受け、決裁した。

#### (9) 特定抗争指定暴力団等の指定期限の延長

警察本部から、特定抗争指定暴力団等の指定期限の延長について報告を受け、決裁した。

#### (10) 公安委員会規則の一部改正

警察本部から、公安委員会規則の一部改正について報告を受け、決裁した。

(11) 運転免許学科試験の対象言語の拡大

警察本部から、運転免許学科試験の対象言語の拡大について報告を受け、決裁した。

3 報告事項

(1) 令和5年度における県警察のワークライフバランス等の推進に向けた取組

警察本部から、

- 取組計画の数値目標達成状況について、年次休暇の平均取得日数、配偶者の出産に係る休暇の取得日数5日以上の取得率、男性職員の育児休業取得率及び全警察官に占める女性警察官の割合のうち、配偶者の出産に係る休暇の取得日数5日以上の取得率のみ、昨年度と比して低い数値となった。
- 職員の男女の給与の差異について、男性の給与に対する女性の給与の割合は、全体的に8ないし9割であり、昨年度と比して男女の差が縮小した。
- 今後も、幹部をはじめとする全職員の意識改革と更なる業務の合理化・効率化等によるワークライフバランスの推進を図るとともに、キャリア形成支援や働きやすい職場環境づくりに向けた取組の推進に努めていく。

旨の報告を受けた。

委員が、

「育児休業を取得しやすい職場環境づくりには、上司・同僚の理解が必要であることから、幹部をはじめとする職員の意識改革に努めていただきたい。

対象職員から意見を吸い上げて、育児休業者に対する定期連絡の時間を変更するなどの改善は、復帰後の女性活躍推進につながると考える。」

旨を発言した。

(2) SNSを通じた少年非行防止等の広報啓発活動の推進

警察本部から、

- 少年の非行防止、健全育成対策を効果的に推進するため、犯罪実行者募集情報や禁止薬物の危険性等に関する広報啓発動画を作成し、青少年健全育成強調月間に合わせて、県内に居住の若年層の視聴者を対象に、ユーチューブ及びインスタグラムにおいてSNS広告として配信する。
- 令和6年7月は、「ダメじゃ！闇バイト！」と題する動画を配信するとともに、今後も少年の非行防止、保護対策を効果的に推進するため、積極的な広報啓発活動に取り組んでいく。

旨の報告を受けた。

委員が、

「SNS広報は、時流に合った注意喚起を呼び掛ける方法であるところ、この広報による効果について検証していただきたい。

アンケート調査を実施して、次回作成の広報啓発動画に反映していただきたい。」

旨を発言した。

(3) 重要事件認知・検挙状況（5月）

警察本部から、

- 5月中は、重要事件を15件認知し、放火事件や不同意性交等事件等15件を検挙した。
- 5月末現在の暫定値では、重要事件の認知件数は52件と、前年同期比2件減少、検挙件数は52件と、前年同期比2件増加した。
- 検挙率は100.0%で推移している。

旨の報告を受けた。

委員が、

「性犯罪が増加する傾向にある夏を迎えるに当たり、その被害者の多くが女性であることから、認知件数を広報するなど女性に対する注意喚起を講じていただきたい。」

旨を発言した。

#### (4) 交通事故発生状況（5月）

警察本部から、

- 5月末現在の総事故件数は1万9,974件と、前年同期比113件増加、そのうち人身事故は1,997件と、前年同期比110件増加した。
- 5月中の交通事故による死者は5人で前年同期比3人増加し、5月中に発生した死亡事故は5件中3件が車両単独等一方的過失による事故であり、死者5人中3人が高齢者であった。
- 5月末の死亡事故として、高齢者の死者が11人であったほか、自転車乗用中の死者は4人であり、うち3人が車両単独による事故、4人のうち3人がヘルメット非着用であった。
- 交通事故抑止対策として、自転車ヘルメット着用促進啓発活動や自転車対象の県下一斉指導取締り等を実施し、交通安全意識の高揚を図ったほか、飲酒死亡事故を受け、合同飲酒検問を実施した。

旨の報告を受けた。

委員が、

「飲酒運転による交通事故が後を絶たないことから、違反者に対し、酒気を帯びて運転することの危険性や厳しい行政処分と罰則について周知する必要性を強く感じた。

自転車に関係する事故を減少させるため、自転車専用の通行空間を整備する必要がある場合には、道路管理者に対し、自転車道の整備を働き掛けていただきたい。」

旨を発言した。

#### (5) 「第4次晴れの国おかやま生き生きプラン（仮称）」における指標等の見直し

警察本部から、「第4次晴れの国おかやま生き生きプラン（仮称）」における指標等の見直しについて報告を受けた。

#### (6) 令和6年度岡山県警察逮捕術大会の開催概要

警察本部から、令和6年度岡山県警察逮捕術大会の開催概要について報告を受けた。

#### (7) 警察舟艇、警察用航空機等合同水難救助訓練の実施

警察本部から、警察舟艇、警察用航空機等合同水難救助訓練の実施について報告を受けた。

4 次回公安委員会

令和6年6月27日（木）13時30分から開催予定